2024 年第 42 週の報告です。

41 週に一度増加した**手足口病**ですが、今週また減少に転じましたが、全国・京都府の警報レベルはどちらも継続しています。保健所別では、先週の警報レベルの地域でそのまま警報レベルが続いています。山城北の**咽頭結膜熱**は定点当り 3.20 件から 1.89 件まで減少、しかし警報レベルは今週も継続しています。眼科定点は**流行性角結膜炎**が 4 件、基幹定点は**マイコプラズマ肺炎**が今週も 28 件と高い数値の報告がありました。

全数報告対象の感染症は、**結核**が 6 件、**腸管出血性大腸菌感染症**が 5 件、**レジオネラ症**が 2 件報告されました。**カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**と**百日咳**が各 2 件、**梅毒**が 1 件報告されました。

百日咳の報告が続いています。府内の年間報告数は現時点で 34 例であり、年間報告数が 1 桁台前半であった 2021 年から 2023 年に比して増加しています。同様の傾向は全国的にみられ、米国でも本年は感染拡大がみられ、コロナ禍前の水準に戻りつつあるとアメリカ疾病予防管理センター(CDC)は警告しています。

百日咳はけいれん性の咳発作を特徴とする気道感染症であり、抗菌薬で治療しますが、1 歳以下の乳児、特に生後 6 カ月以下では死に至る危険性も高い病気です。ワクチン接種によって発生数は激減していますが、ワクチンの効果は経年的に低下し、病原菌への再暴露（ブースター効果）が無ければ免疫が減衰し、既接種者でも感染することがあります。ワクチン既接種者が発症した場合、典型的な症状を呈さず、持続する咳のみのことも多く、気づかないうちに周囲に二次感染させる可能性があります。特に乳児に接する機会の多い方や出産予定の方は、咳が続く際は早めの医療機関の受診をお願いします。